

令和 6 年度 中部地方整備局ダム事業費等監理委員会及び部会

議事要旨

日 付：令和 6 年 9 月 11 日（水） 13：30～17：00

場 所：ウインクあいち 9 階 902

出席者：松尾委員長、小川委員、松本委員、高木委員、豊田委員、
各部会構成員

- 次 第：
1. 開会
 2. 挨拶
 3. 議事
 - 1) ダム事業費等監理委員会
 - 2) ダム事業費等監理部会
 - (1) 新丸山ダム建設事業部会
 - (2) 設楽ダム建設事業部会
 - (3) 天竜川ダム再編事業部会
 - (4) 三峰川総合開発事業部会
 4. 議事要旨の確認

1) ダム事業費等監理委員会

いただいた意見：

- ※意見なし

2) ダム事業費等監理部会

いただいた意見：

【全事業共通】

- 工期短縮策、コスト削減策は、検討中として報告した項目を、今後進捗に応じて説明されたい。
- CO₂削減の取り組みについても、今後説明されたい。
- 予算整理表では、当初予算、当初予算変更、補正予算を並べて過年度と比較できるようにすること。
- 主な実施内容ごとに前年度予算と今年度予算を比較し、金額の差が大きいものについては個別に説明を補足されたい。
- 事業効果の説明については、適宜条件等補足が必要な場合は記載されたい。

【新丸山ダム建設事業部会】

- 令和 6 年 8 月に変更された基本計画の事業費と工期を、計画どおりに進めることが重要である。今後、基本計画に対しての事業費と工期の増減を報告されたい。

- ダム建設はインフラ整備だけでなく、地域の魅力向上や活性化にも繋がるため、引き続き現場見学会はもとより、完成後も見据えた地域振興等に積極的に取り組まれない。

【設楽ダム建設事業部会】

- 付替道路の整備は、地域の悲願と思われるため、引き続き地元に寄り添い、早期供用に努められたい。

【天竜川ダム再編事業部会】

- 土砂還元による海岸侵食の抑制効果についても、河川管理者等と連携して引き続き検討されたい。
- 恒久堆砂対策施設の検討に必要な調査（土砂還元（置土）含む）については、事業期間内に完了するよう計画的に実施されたい。

【三峰川総合開発事業部会】

- ※個別意見なし

主な質疑

各事業共通

○資機材の高騰が現在も続いているが、工事契約後において資材費や労務費の高騰が続いた場合も、契約は履行されるのか。

⇒資機材や労務費等の価格が工事契約後に見直された場合は、適正な価格をスライドさせるなど状況に合わせた変更契約の手続きを実施し、契約を履行している。

新丸山ダム建設事業部会

○建設中のダムは観光資源としても貴重であり、海外からの観光客向けのツアーとの協力も重要だと思う。また、今年度打設開始によって現場見学者の増加が考えられるため、説明者の増員を検討してはどうか。

⇒杉原千畝記念館や日本一高いバンジージャンプなど八百津町の観光資源を目的として、国内外から観光客が訪れているので、申し込みがあれば対応していきたい。現在の現場見学対応は事務所職員で対応している。今後、見学者の増加が想定されるため、専属で対応する者の配置も考えていきたい。

○予算の取り扱いとして、変更により純減となった金額分をリスク対策費に計上しなおすことは可能か。

⇒事業費 4,100 億円のうちリスク対策費として約 270 億円を将来の不確定要素への費用に見込んでいる。コスト管理としては、ある費目で純減が起きたとしても別の費目で純増も起きうるため、リスク対策費を除いた事業費内で引き続きコスト管理に取り組んでいきたい。

○重金属対策の費用について、計画の内数か。

⇒自然由来の重金属を含む要対策土や骨材洗浄後の脱水ケーキの処理に多くの予算が必要と見込んでいる。重金属の対策に要する費用は、先月、変更手続きを終えた基本計画に計上している。

○令和５年度予算額の内、工事費①施設維持等の前倒し増の金額が大きいので要因を説明してほしい。

⇒基本計画で計上している貯水池伐採において、他費目の先送り減等で減額した分を活用し、前倒しにて進めたものである。貯水池伐採は事業工期上クリティカルの工種ではないため、予算の状況も踏まえ実施しているところ。

○令和５年度の測量設計費の費目のうち、貯水池内地すべり対策における高品質ボーリング実施による前倒し増とある。記載内容からは高品質ボーリングは基本計画に含まれていない調査と解釈できるが、前倒し増ではなく純増ではないか。

⇒追加した高品質ボーリングは、変更手続きを終えた基本計画に計上しているため、前倒し増となる。

○令和５年度予算と令和６年度予算の各費目の金額を比較すると、工事費④ダム本体付属関係や測量設計費②ダム本体関係は令和６年度予算が令和５年度予算よりも大きく減額しているが、問題ないのか。

⇒限られた予算の中で、各工事・業務の進捗状況を踏まえ優先順位の高いものから実施している。具体的には、事業工期に影響する項目は優先度が高いため、事業の進捗状況によっては各年度毎に費目の増減はある。

○DX 施策によってコスト縮減が見込まれるが、DX 施策のためには事業者による投資も存在すると思われるため、そうした事業者の投資も含めた総合的な評価がなされるとよいと思う。

⇒ご意見を踏まえ、今後取り組んでいきたい。

設楽ダム建設事業部会

○ダムの機能として、洪水を防ぐ機能がある中で、説明資料の４ページ目について、設楽ダムの整備前と整備後で浸水想定区域を比較しているが、整備後でも浸水想定区域がこれだけ残ってしまうのか。該当地域は霞堤が残っている地域か。

⇒該当地域は霞堤地区である。

⇒河川整備計画の目標である戦後最大洪水が再来した場合を想定したものであり、霞堤地区については、浸水被害の解消ではなく浸水する頻度を低減させることとしている。

○意見であるが、21 ページ目の予算は、補正予算を反映した金額を記載しているのか。予算比較において、補正を含んだ予算と当初予算の比較は少し観点がずれてしまうのではないのか。補正予算は、あくまでも当初の予算が成立後に必要に応じて追加される予算であり、参考値として書き込むのは良いが、当初予算については過年度の当初予算と比較をするほうが良いと考える。また、参考値の令和5年度の決算としては当初と補正を合わせたものとなっているのか。

⇒参考値の数字は、当初予算の変更後の数字を記載しており補正予算は含まれない。より分かりやすい記載方法について検討していきたい。

○当初予算と当初予算に変更を加えたものと補正予算は別の話であるためその3つを区別した形で整理していただきたい。

⇒より分かりやすい記載方法について検討していきたい。

○12 ページの工事費、②ダム本体関連について、純増の内容については先ほどの説明で理解ができた。しかし、純減については、金銭的にはかなり大きいものになっており、契約差金によるもののため説明が難しいかもしれないが、今回のみの単年度で起こるものなのか、今後も毎年起こるのか、どのような性格の数字なのかを説明をしていただきたい。

⇒昨年度契約を行った本体一期工事についてであり、5か年の国債工事という大きな規模の工事である。その中で契約時に、官側の積算（予定価）から約15億円程度の差金が発生した。5年間の中で最初の1回だけ発生するというものである。

○5年の中で最初の一回ということは、5年後、10年後もまた起こるのか。

⇒新丸山ダム同様、二期工事は随意契約となるが、一期工事の落札率が適用されるため、二期工事においても同様に初年度に差金が発生する。差金については、どの工事でも必ず出てくるものであるが、一本の工事として大きいものであったため資料に示している。

○用地費及び補償費について、先送り減と純増の理由は説明されたが、前倒し増は一定の大きさを持った増であると考えている。こちらについては、何が起きているのか、説明していただきたい。

⇒前倒しの増については、工事用道路について前倒しをしたものがある。工事の中で先に実施できるところは実施し、次の工事につながるよう進めているところ。今回は、国道257号4号橋の先の土工区間への工事用道路を進めている。

○23 ページ目について、ダム本体関連の工事費4,210（百万円）と記載があるが、前年度の2,850（百万円）から大きく増えているため、主な要因を説明いただきたい。

⇒本体1期工事の契約の中でこれから基礎掘削が本格化してくる。それに伴い、昨年度よりも掘削量が増える、というところで大きく増えている。

○なぜ金額が増えているのかが知りたいところであるため、説明に入れていただきたい。

⇒数量等を説明に入れ事業量が分かるように工夫していきたい。

○資料の 9 ページ目について、「増額の見通しがあるもの」「コスト縮減の見通しがあるもの」とあるが、3,200 億円と令和 16 年度の工期をベースとした増減となる認識でよいか。

⇒そのようなご理解で問題ない。

○14, 15, 17 ページで純増の説明をしているが、今回だけに限ったものなのか、地域内でまた同じような事象が発生するのか。その場合は、かなりの増額要因となってしまうのではないか。不確定要素の多い中で、増額要素が判明した場合は、今後もとりとまとめたものを示していただきたい。今回の資料の 9 ページのように記載していただいたことは、非常に良い印象を受ける。工期についてもそのような見解があれば記載していただきたい。

⇒純増要因についてはケースバイケースである。例えば、貯水池斜面对策については、今回のように事前にボーリング調査を実施しても掘ってみると実際は想定とは違う場合もあるが、そのような事象は他箇所では現在のところ確認されていない。一方で、トンネル工事の掘削補助工法については、当初から必要性の判断が難しいといった事業の特性もある。工期についても、工事の進んでいない部分や用地取得ができていない部分もあるため、不確定要素がまだある。それらを見込み、精査しながら、金額及び工期について予見ができたところで説明していきたい。

○地元の方は付替道路の早期供用について一番望んでいる。令和 16 年度まで工期が延伸したことで、ダム本体については別として、付替道路だけでも早く供用することはできないのか。付替道路について、地元に取り添い、早め早めの供用を目指していただきたい。

⇒地元からの要望として、「付替道路を早く供用してほしい」という声はいただいている。我々としても最優先で、最大限努力しているところではあり、できたところから供用を開始していく。その中で、便利になっていくところを実感していただきたい。昨年度は、付替県道設楽根羽線について一部暫定供用をおこない、地域から「便利になった」という、実感をいただいている。

○DX はダムで実施するのか。

⇒ダム本体工事での実施を検討している。

天竜川ダム再編事業部会

○詳細設計に着手してからかなり期間が経過しているが、詳細な計画が立てられない理由は何か。

⇒既設の利水ダムを運用しながら事業実施すること、土砂還元がダム下流の漁業や取水に及ぼす影響等も考慮しながら総合的に検討を進めているところである。また、気候変動の影響を考慮して変更された河川整備計画も考慮していく必要がある。

○事業費と工期について、現計画のとおり進捗可能か。

⇒現在事業の詳細な事業計画の検討を進めているところであり、今後、事業期間や事業費の変更が生じる可能性がある。なお、検討に当たっては働き方改革や物価上昇も考慮する必要がある。事業計画の検討が整った段階で本委員会に示していきたいと考えている。

○恒久堆砂対策施設の工法が変更される等の変遷があるが、これまで実施してきた調査・検討は役立つのか。

⇒過去の調査や検討の結果や設計で得られた課題や知見を活用し、引き続き検討を進めていく。

○気候変動を考慮した河川整備計画変更を踏まえ、本事業の計画にどのような影響があるのか。

⇒河川整備計画変更により目標規模が変わったが、基本的には運用面で対応していく方向で検討している。

○恒久堆砂対策施設の整備は、海岸侵食の抑制が目的か。

⇒新たに確保する洪水調節容量の維持が堆砂対策の主目的であるが、その方法として堆砂の一部を河川に還元することで土砂移動の連続性を持たせる方法を選定している。

三峰川総合開発事業部会

※質疑なし

以 上